



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
平成29年度学校だより
第12号
平成30年2月1日発行

子どもは風の子 夢をふくらませて、次年度への準備を！



大寒を過ぎ、日暮れが少しずつ遅くなってきました。

大雪に見舞われ、27日の土曜活用事業をやむなく中止にしました。また、インフルエンザの流行にも一層の注意が必要です。学級閉鎖の措置を取りましたが、早い回復を祈るとともに、さらに換気、うがい、手洗いを励行しているところです。

厳しい寒さにも大雪にも負けないで、元気に登校した子どもたちは、40cm程積もったグラウンドで、ふわふわの雪の感触を楽しみながら雪遊びをしました。また、極寒の体育館では友達と短縄の練習を熱心にする姿、グラウンドではサッカーに興じる姿が見られます。その姿は、まさに「子どもは風の子！」。寒さに負けずに冬を楽しんでいる姿から元気をもらいます。

さて、1月は、1年生は昔遊び、5年生はみずなぎ学園の方々との交流で地域や社会の皆様に関わっていただき貴重な体験をしました。6年生は、中学校での体験入学、そして本日は、来年度の入学児童を迎えて、5年生と1年生が交流し、次年度へつながる貴重なふれあいを経験しました。行事の節目ごとに一層の成長や個々のよさがうかがえています。

引き続き、2月も一日一日を大切に、1月に「思い描いた夢」をふくらませ、次年度への準備をする時期として、その学年でつけるべき力をつけられるよう、充実した授業は勿論のこと、補充にもあたっていきます。

また、2月は、「6年生を送る会」を計画しています。6年生への感謝の気持ちを込めるとともに、1年生の学習のまとめとして、その学年のよさが発揮できるように練習に取り組んでいます。学年全体で力を合わせて取り組むので、学級の垣根を越えて子どもたちの連帯感が生まれ、互いの理解も深まります。ご家族をはじめ、日頃お世話になっております地域の皆様にもお越しいただいて、子どもたちの姿をご覧いただきたいと存じます。

子どもたちが元気に次年度への準備に取り組めますよう、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

校長 村川 広美
教職員 一同



日々に新たに・・・

節分

二月三日は「節分」です。季節を分けるという意味で、節分は一年に四回あります。一月の節分は、「心の中の鬼退治をしよう」と取り組まれます。子どもたちは、どんな心の鬼を退治するのでしょうか。節目節目に自分を見つめ、振り返ることは大切です。翌四日は「立春」。一年の成長を振り返り、来る春にそれぞれのよさと「がんばり」をつなげさせたいです。

雪・雪・雪

校区では、ところどころで雪かきをしてくださっているダイヤモンドパトロール隊の方々や地域の方々のお姿を見かけました。登校する児童や道行く人をもつてのご厚意に感謝申し上げます。

また、大雪でも元気に登校し、雪遊びを思いっきり楽しめているのは、長靴や防寒着など、ご家庭で準備をしてくださっているお陰もあると感謝しています。

どんと焼き

左義長とも言い、市内でこの行事を行っている学校は、二校だけになってきているようです。今年も、出張のため、私は子どもの姿が見られませんが、子どもたちの「字が上手になりますように」「勉強ががんばれますように」の願いの実現を応援したいと思います。

非認知的能力？

最近、テレビで語られていた能力です。この力は、知能に関係なく、「意欲」「協調性」「粘り強さ」「忍耐力」「計画性」などの測れない力で、将来の支えとなるものとして、今、世界的に注目されているそうです。特に、幼児期の「子ども主体の遊び」で育ち、子どもの自発的な部分を大事にし、させられるのではなく、自分からやっていく中で育つ力で、幼児期から育成することが重要とも言われています。また、「がんばればできる」経験を積み重ねることも大事で、子どもが失敗しかけたら、「こうしたらどう」とフォローしてあげると「がんばりが続き、「がんばればできるんだ」が分かってくる中で、後で必ず生きてくる力になるということです。

大相撲で初優勝の栃ノ心。師匠とともに歩んだ十二年。語りきれない苦しい長い年月を支えたのは、こういう力なのかと重なりました。学校では、様々な経験や人とのかわりを通して、その子らしさを大切に、自分のよさを実感させ、根っこの太い子に育てたいと取り組んでいます。そのためにも大人も日々勉強です。

